



『理念』

諫田 尚哉*

『好きこそもの上手なれ』ということばがあるように、好きであればこそ、知らず知らず
に努力を重ね、特徴ある技術を獲得してしまうことがある。『Jisso』が日本のお家芸と言われ
るのは、『Jisso』分野に対して意欲を掻き立てられる人達が多く育ち、切磋琢磨した背景があ
るからであろう。今でも『Jisso』技術に関する新しい成果が現れ、研究開発が脈々と受け継
がれているように思われる。この技術分野で必要となる資質が、日本の文化的風土で自然に
育ちやすいためかもしれない。そのため、文化的背景の異なる外国では、真似はできても育
てられず、教えようとしても根付かない技術群になっているように感じられる。『Jisso』とい
う技術分野には、『Packaging』や『Interconnection』では分類しきれない部分を含んでいると
言われる。実際、製品を手にして、絶妙のバランス感覚に驚かされることも多い。要素技術
の融合や調和が図られた『Jisso』技術によって、研究や事業でのライバルなき成長を実現す
るチャンスがまだまだあるように思われてならない。

自動車やエレクトロニクス製品の高い品質は世界的にも定評が確立し、まねのできない域
に達している。器用さと潔癖性だけで語られることも多いが、精神的・文化的な背景がこれ
らを支えていると感じられることも多い。『もったいない』と感じる感性やきめ細かな心配り
が、高い生産性と信頼性を可能にし、製品や研究の品質として結実しているのではないだろ
うか。基板製造技術や接続技術を応用する方々が、電気化学や金属組織学の専門家と妥協な
く意見を交わすことで、大規模なプラントにも細かい配慮が組み込まれ、高い品質を生み出
すことが可能になるのである。基礎的な研究の成果を応用に結びつけるための秘訣と言える
のではないだろうか。

本エレクトロニクス実装学会では『理念』を制定し、基礎要素の深耕、要素技術の融合、
新しい価値の創造（応用）にいたるまでを学会活動の主軸と捉えることを宣言している。
『Jisso』分野での新しい価値の創造は、基礎から応用までを一貫して見届ける努力によって結
実するのだということ表現し、尊重しようという姿勢の表明である。本学会を技術の『ゆ
りかご』や『るつぼ』に活用いただき、さらなる活性化につながることを期待したい。

ここまで、『Jisso』技術分野における日本の特殊性を述べてきたが、グローバル時代に逆行
することを呼びかけているわけではない。真のグローバル化は標準的な考え方を受け入れる
ことによってもたらされるのではなく、それぞれの特徴を發揮した上で到達する高いレベル
の共通理解によって得ることができると考えられる。今後も、『Jisso』技術を世界に発信し続
ける学会として継続的に発展するため、今一度『理念』をかみしめておきたい。